

始まりは熟睡の中
極夜にて温もりを乞う
絆(ほど)された鴨
寝床を這い出で空を仰ぐ

仰いだ先に日を見出す
それは刹那の警鐘なれど
確かに鴨を眩ませたり

鴨は飛ぶ
陽気を目指して
鴨は憑く
高揚に結ばれて

暫しの巡遊
吉兆の蜃気楼
悶えの末に音を紡ぐ
諾を求めて前に進む
白夜に墮つ

不承の振り子
むざむざ染み込み
欠けた震えが牙をむく
席を失い巡りが止まる
く
P>虚ろの時が鴨を取り巻く

白夜に墮つ

暖を欲した身が焦げて
白日のもと融かされていく
歪んだ熱に蝕まれ
今となりては極夜を偲ぶ

明けない夜がないのなら
暮れない昼もないだろう

暮れた先では望月求めん